

1. 社会実験の概要

1

【位置図】



【現状と課題】

道路空間に歩行者が快適に滞在できる環境が整っていない

貨物車両や一般車両の駐停車が多く発生

走行車両の速度が高く、安全に通行できる歩行空間が不足

写真① さっぽろシャワー通り



写真② 南1西2中通り



写真③ 南1西3中通り



写真④ 南1西3中通り

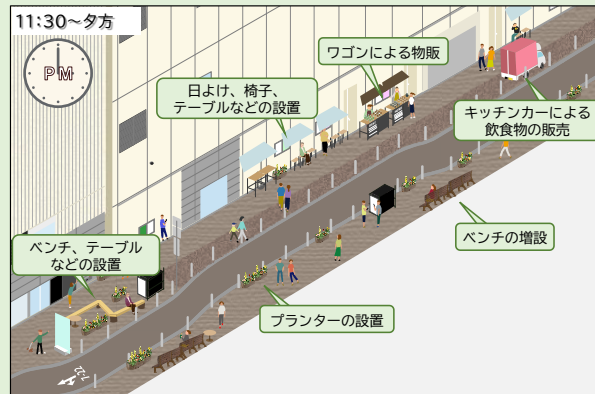


【実験概要】

さっぽろシャワー通り

南1西2・3中通り（123歩通り）※

実験時 歩行者中心の空間として運用する時間帯における賑わい空間の創出



ヒトが滞在しやすい空間づくり

ベンチやテーブル、椅子、日よけなどを設置し、日常的に滞在しやすい空間を創出

ヒトが防れやすい空間づくり

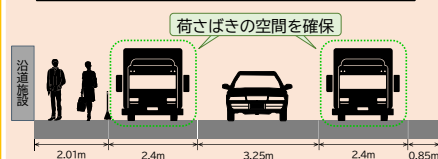
ワゴンやキッチンカーで飲食や物販を実施し、ヒトが訪れやすい空間を創出（主に週末に実施）



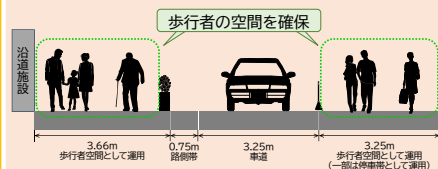
道路空間の運用を時間帯で変更

実験時 荷さばき中心時間帯と歩行者中心時間帯で道路空間の運用を変更し、歩行空間を確保

18:00~11:30:荷さばき中心時間帯



11:30~18:00:歩行者中心時間帯



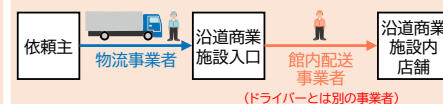
（これは南1西3中通りのイメージです）

※今回の実験で南1西2・3中通りを「123歩通り」と命名し、右のロゴを作成し周知に活用

もっと、広く、歩きやすく、おもしろく。大通全体の魅力をアップするために、中通りは「123歩通り」に名を変えて、生まれ変わります。
（対象とする中通りは、「南1西2・3中通り」であり、住所を表現しています。また、「13歩通り」は、気軽に「散歩できる通り」との想いをこめています。）

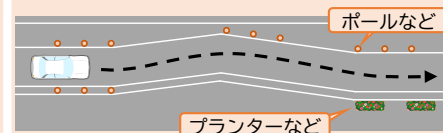
駐停車時間の短縮

実験時 沿道商業施設内における配送は別の事業者が対応し、ドライバーが施設に入らないため、駐停車時間を短縮



歩行空間の創出、走行車両の速度を抑制

実験時 スラロームを設置することなどにより、ハンドルを切る必要があるため速度を抑制



2. 社会実験の結果

① さっぽろシャワー通り

ヒトが滞在しやすい空間づくり

- 既存ベンチを再配置するとともに、新たにオーニングや芝生、プランター、小型ベンチ（移動可能）を設置し、日常的に滞在しやすい空間を創出したことで、**多くの利用者が滞在**。
- 新たな滞在空間における**総滞在者数は1.7倍**、**平均滞在時間は1.3倍に増加**。



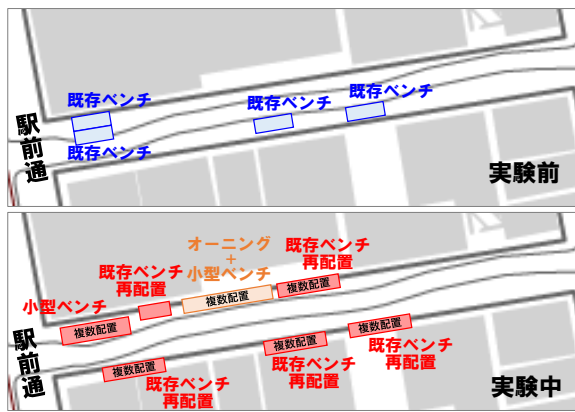
【実験中の利用状況】



【オーニング設置箇所の利用状況】

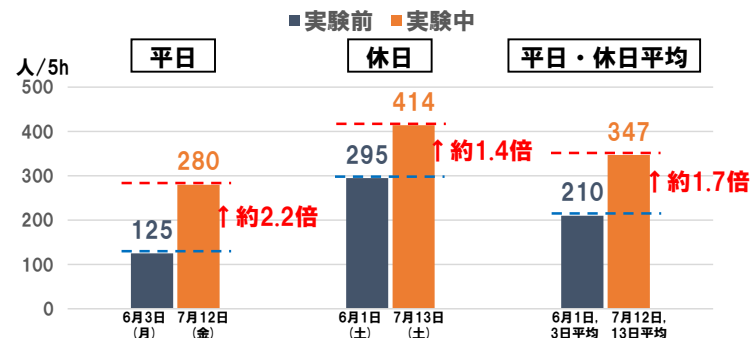


【芝生、プランター、小型ベンチ（移動可能）設置箇所の利用状況】

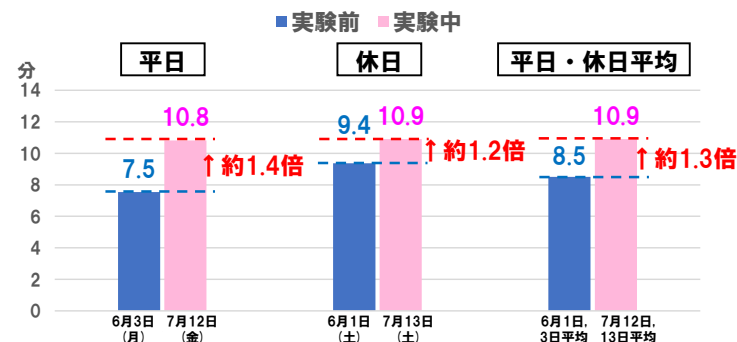


【実験前・実験中のベンチ配置】

■ベンチ総滞在者数の変化（12～17時の5時間合計）



■ベンチ利用平均滞在時間の変化（12～17時の5時間平均）



【出店無しの日常における利用者アンケート結果（一例）】

- ▶高齢者・女性
 - ・雰囲気がよくて感動している。
- ▶社会人・女性
 - ・日よけが沢山あるとよい。
- ▶学生・女性
 - ・人工芝が自然を感じられて居心地はとてもよい。
- ▶学生・男性
 - ・緑多めがよい。このような場所があると皆さん助かるのではないかな。

2. 社会実験の結果

① さっぽろシャワー通り

ヒトが訪れやすい空間づくり

- 沿道商業施設の店舗が道路上に出店（4日間）し、カレー、アイスクリーム、飲料品を販売。来街者は新たな滞在空間を活用し飲食しており**賑わいが創出**。
- 沿道商業施設の店舗以外では**キッチンカー**が道路上に出店（2日間）し、軽食、飲料品を販売。来街者は新たな滞在空間を活用し飲食しており**賑わいが創出**。
- さっぽろシャワー通りの利用者は、**滞在空間の居心地、歩行しやすさに対して、97%が高い評価**。「**今後も行ってほしい**」の声が**98%**とニーズが高い。



【沿道商業施設の店舗による道路空間活用状況】



【キッチンカーの道路空間活用状況】

【出店者(沿道商業施設の店舗)のヒアリング結果(一例)】

- 親子連れで賑わった。一部店内への誘導ができた。
- 空間に魅力を感じて立ち寄っていただけた。
- 多くの方に楽しんでもらえたことや、私達としても**新たなチャレンジ**ができたことはとても良い機会であった。

【出店者(キッチンカー)のヒアリング結果(一例)】

- 中通りにも関わらず、**キッチンカーの存在に気付いて立ち寄ってくれた**。
- 購入後に座って食べられる**日よけ(オーニング)**付きベンチは、お客様が満足されて利用しているようであった。

●実験を通しての課題

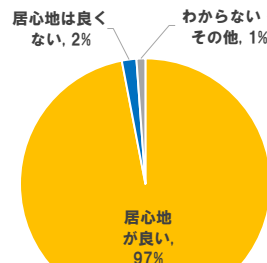
- オーニングの設置・撤去等、日々の運用の負担軽減。
- 占用料が発生した場合に利益を見込みづらいため、収益確保に向けた周知・広報等の改善。

●今後の方向性

- 今後は、効果的な道路空間活用に向けて、沿道商業施設等が主体となった仕組みに移行し、地域のルール等を検討した上で、本取組の本格運用を目指す。
- 上記知見を周辺の中通りの整備や仕組みづくりへ反映。

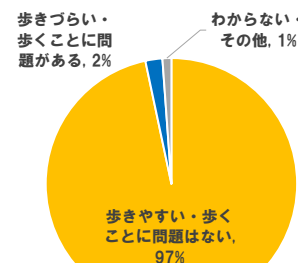
■さっぽろシャワー通りを利用している方々に行ったアンケート調査結果

97%が居心地が良い



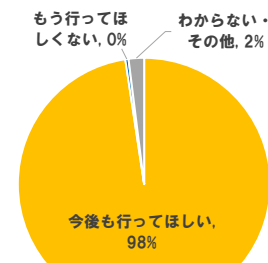
N=961
利用者アンケートより

97%が歩きやすい



N=961
利用者アンケートより

98%が今後も行ってほしい



N=961
利用者アンケートより

【道路上出店日におけるさっぽろシャワー通り利用者アンケート結果(一例)】

▶社会人・男性

- キッチンカーがあってよい。この取り組みをもっとやった方がよい。

▶社会人・女性

- 冬期以外はこの取り組みをやってほしい。キッチンカーは歩く邪魔にならなくてよい。

▶学生・男性

- 居心地が良い。キッチンカーがあっても歩きづらさには問題を感じない。

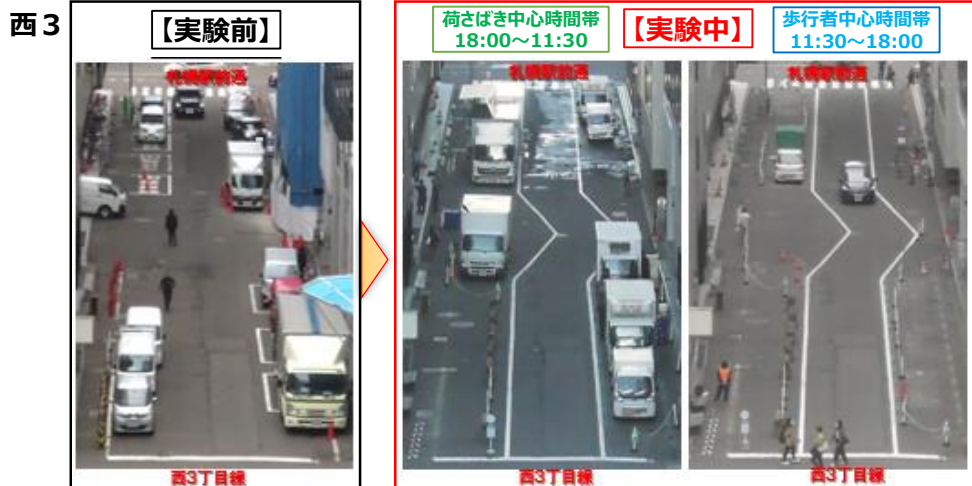
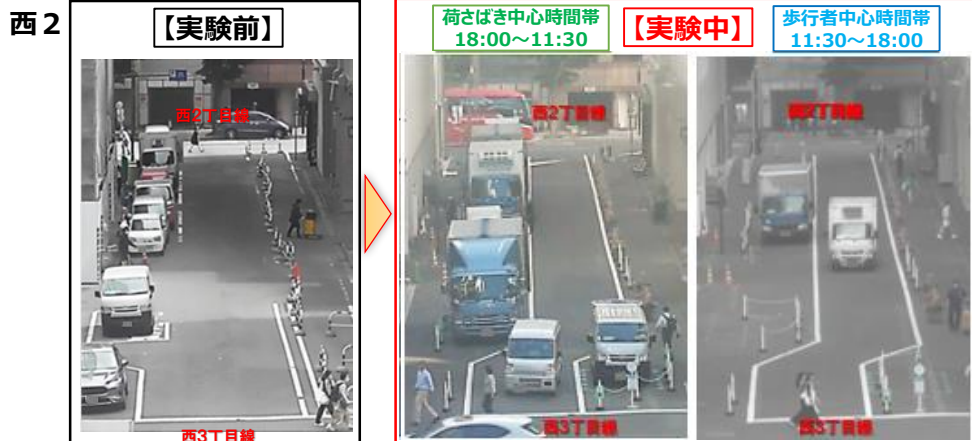
2. 社会実験の結果

②南1西2・3中通り（123歩通り）

道路空間の運用を時間帯で変更

- 荷さばき中心時間帯は、一般車の駐停車が著しく減少し、貨物車主体の荷さばき空間に変化。
- 歩行者中心時間帯は、歩行空間が拡大し、歩行者がスムーズに通行。

■実験前から実験中における道路空間の変化

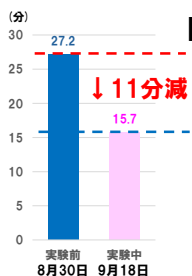


駐停車時間の短縮

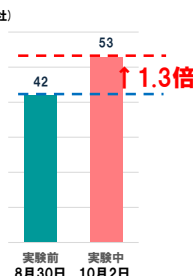
荷さばき時間短縮による効率化

- 沿道商業施設の館内配送事業者との連携などにより、**中通りの貨物車1台当たりの駐停車時間は約11分短縮**。
- 沿道商業施設の各店舗への個別配送から都心部東側の物流センターへ集約しまとめて配送する形式を促進（**利用企業数は実験前と比べて1.3倍**）。**中通り全体の貨物車の駐停車は88台減少**。貨物車の駐停車時間・台数は減ったが、**効率的な配送により実験前と同等量を配送**。

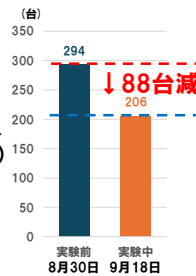
■貨物車駐停車平均時間
(中通り全体、7:00-20:00)



■物流センター利用企業数



■貨物車駐停車台数
(中通り全体、7:00-20:00)



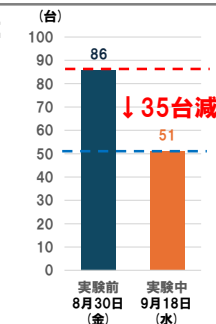
【沿道商業施設のヒアリング結果（一例）】

- 館内配送、物流センター活用の取組を強化した結果、実験前よりも中通りの駐停車時間や台数は減ったが効率的な配送により実験前と同等量を配送でき、特に問題はなかった。

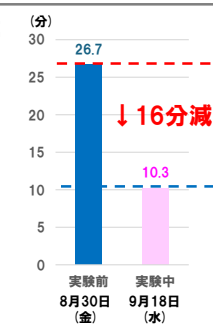
一般車の駐停車抑制による整序化

- 新たな荷さばき空間を設置し、地域と連携した周知・啓発により、**中通り全体の一般車は35台減少し、1台当たりの駐停車時間も約16分減少し、一般車の整序化が実現**。

■一般車駐停車台数
(中通り全体、7:00-20:00)



■一般車駐停車平均時間
(中通り全体、7:00-20:00)



2. 社会実験の結果

②南1西2・3中通り（123歩通り）

歩行空間の創出、走行車両の速度を抑制

歩行環境改善による歩行者数の増加

- 歩行環境改善により、歩行者の約8割が「通行しやすくなった」と回答。
- 西2・3ともに歩行者交通量が増加。特に西2では、24%増加（365人増加）。

西2 【実験前】



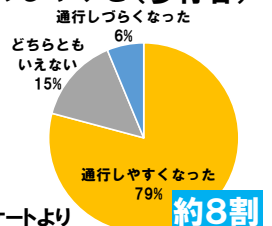
【実験中】

西3 【実験前】

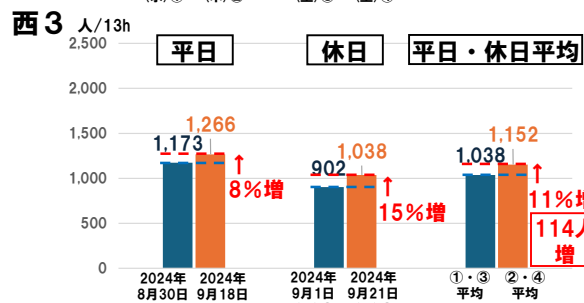
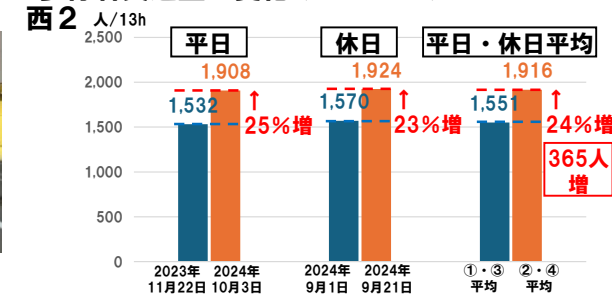


【実験中】

■新たな歩行空間の利用のしやすさ（歩行者）



■歩行者交通量の変化（7:00-20:00）



車両の速度抑制による安全性向上

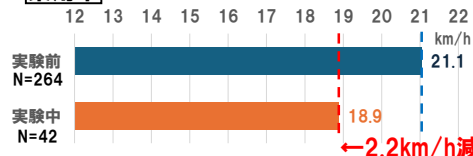
- 車道の幅員を狭めることやスラロームを設置した結果、車両の速度が低下（乗用車2.2km/h減、貨物車4.7km/h減）。

■スラローム部における車両の平均速度※の変化（西3）

※実験区間を撮影したビデオ画像から、スラローム区間の走行時間を計測し速度を算出。

※実験中の車両の平均速度は、7～20時に通過した車両のうち、外側線内をはみ出さず走行した車両のみ対象

乗用車



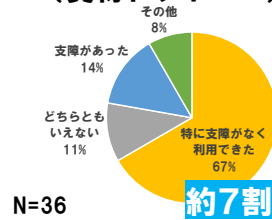
貨物車



中通り利用者、沿道商業施設等による実験の評価

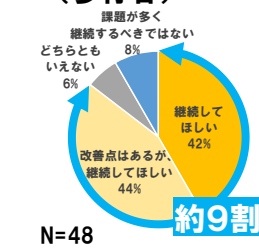
- 貨物ドライバーの約7割が本実験による新たな荷さばき空間の運用方法を「支障なし」と回答。中通りを利用する歩行者の約9割が本実験を「継続してほしい」と回答。
- 沿道商業施設等からも否定的な意見は確認されず、取組の継続を望む声を確認。

■新たな荷さばき空間の利用のしやすさ（貨物ドライバー）



N=36
利用者アンケートより

■今後の継続意向（歩行者）



N=48
利用者アンケートより

【沿道商業施設等のアンケート調査結果（一例）】

- 実験時の運用がうまくいったので、継続してほしい。
- 今後の取り組みについても、全面的に賛同、協力する。
- 歩行者も荷さばきする方も、安全、安心に歩ける環境になっていた。

●全体を通しての課題

- タイムシェアリングのボール移動やプランターの水やり等、日々の運用・管理体制の構築。
- スラローム部では外側線内をはみ出さず走行した車両の速度低下が確認できたものの、外側線を守らずに速度を落とさない車両も一部存在しており、対策の検討が必要。周辺道路への一般車両の駐停車が増加しており、ルールの周知・徹底、駐車場誘導が必要。

●今後の方向性

- 今後は、荷さばき空間と歩行空間のタイムシェアリングの実施に向けて、沿道商業施設等や関係機関と路面標示、占用物件、運用・管理体制などの協議・調整を行い、本格運用を目指す。
- 上記知見を周辺の中通りの整備や仕組みづくりへ反映。